

## 第 48 回衆議院議員総選挙総括

民進党県連第 3 回常任幹事会

第 48 回衆議院議員総選挙は、安倍総理の決断による 9 月 28 日召集の第 194 回臨時国会の冒頭解散により、実質的な選挙戦に突入することとなった。

突然の大義なき解散に直面した民進党の前原誠司代表は、同日、結成されて間もない希望の党と合流し、民進党からの公認は出さず、希望の党に公認申請することを表明、午後の両院議員総会で説明し全会一致で了承を取り付けた。

しかし小池百合子希望の党代表は、民進党から立候補を予定していた議員の「全てを受け入れ公認することはさらさらしない」と発言、これにより枝野幸男代表代行は、希望の党に受け入れられないリベラル系の立候補予定者の受け皿として、立憲民主党を設立したほか、両政党に属せず無所属として背水の陣で立候補を模索する候補予定者の 3 つに分裂して、10 月 10 日公示、10 月 22 日投開票の選挙戦に突入した。

1 区金子恵美候補は、無所属として退路を断って選挙戦に臨み、2 区岡部光規候補、4 区小熊慎司候補、5 区吉田泉候補の 3 人は希望の党公認候補として、3 区の玄葉光一郎県連代表は無所属として、それぞれ選挙に臨むことになった。

1 区金子恵美候補は、無所属立候補であることを前面に、安倍一強を打倒するため草の根的市民活動を展開して戦いを挑んだ。

2 区岡部光規候補は、第 2 次安倍内閣での復興大臣を相手に、連合福島などと草の根的に幅広い層に働き掛けを強めた。

3 区玄葉光一郎候補は、旧 2 区で当選した平成 5 年以來の無所属での選挙戦となったが、後援会組織をフル稼働させるとともに推薦を受けた団体にも働き掛けを強めた。

4 区小熊慎司候補は、前回の選挙で票が伸び悩んだ、町村部に設置した 15 の後援会支部の支援を受けるとともに、渡部恒三選対本部長の現役時代の支持層にも浸透を図った。

5 区吉田泉候補は、現職復興大臣を相手に、新党への追い風を期待するとともに、いわき市と双葉郡の後援会を引き締めて、県内各地の避難者への浸透にも全力を挙げた。

このような中選挙戦序盤の 10 月 12 日、選挙情勢調査による希望の党の伸び悩みが明らかになると、民進党の小川敏夫参議院議員会長は、党所属参議院議員

の多くは衆議院選後に希望の党に合流せず、立憲民主党や民進党出身の無所属議員らとの再結集を目指す意向を表明し、野党再編思惑が交錯した。

選挙戦後半戦に入り、自民党は接戦となって当落線上にある自党候補者のでこ入れを行う 50 の重点区を設定し、幹部や知名度の高い応援弁士らを集中投入することとして、県内では福島 4 区を重点区とした。

投票日は、台風 21 号が近づく雨模様の中であったものの、投票率では戦後最低となった前回の 52.51%を上回る、56.69%となった。

投票の結果 1 区金子恵美候補は、無所属として非自民勢力のみならず幅広く保守勢力をも巻き込み戦った結果、相手候補に 1 万 3,000 票強の差をつけて当選した。

2 区の岡部光規候補は、5 万 9,000 強の票を獲得したものの、閣僚経験の相手候補に 3 万 7,000 票強の差をつけられ涙をのんだ。

3 区玄葉光一郎候補は、24 年ぶりの無所属での立候補となったが、後援会組織等をフル回転させ 9 回目の当選を果たした。

4 区小熊慎司候補は、自民党重点区となった相手候補に 1,209 票差で惜敗したものの、比例東北ブロックの希望の党候補として復活当選を果たした。

5 区吉田泉候補は、現職の復興大臣を相手に戦ったが、立候補表明が公示直前になる出遅れや落選後 2 年半のブランクなどが響き、相手候補に約 3 万 5,000 票差をつけられ涙をのんだ。

比例代表の県内党派別得票は、自民党 28 万 2,000 票に対し希望の党 19 万 9,000 票、立憲民主党 16 万 8,000 票強と民進党系の勢力の合計が上回り、野党の分裂が、くしくも自民党と公明党の与党を躍進させる格好となった。

全国では、政権与党が定数の 3 分の 2 を確保し、また、自民党は国会運営を主導できる絶対安定多数の 261 議席を単独で確保して大勝した。これは、民進党の分裂問題など野党の混迷に乗じた結果と、与党批判の受け皿となるべき希望の党・小池代表の発言などによって、希望の党に対する期待が不信感に変わったことは言うまでもない。潮目が変わったことは明らかだった。

しかしながら、比例代表の党派別得票を見ても、国民の大多数が自民党を支持した政権の積極的選択ではないと思われる。民進党県連としては、今回の総選挙で 3 つに分かれて選挙を行うことを余儀なくされたが、中央の動向を見極めつつ所属県議 17 名が一致結束、県連の組織の強化と震災・原発事故からの復興・創生に全力で取り組んで参りたい。